

令和 8 年度 山形市立第六小学校 学校経営構想

1 学校教育目標

笑顔あふれる子どもの育成

★目指す子どもの姿

- | | | |
|--------------------|---------|---------|
| (1) 学習大好き かしこい子ども | 「かしこく」 | (確かな学力) |
| (2) みんなを大事に 豊かな子ども | 「ゆたかに」 | (豊かな心) |
| (3) 明るく健やか 元気な子ども | 「すこやかに」 | (健やかな体) |



2 学校経営の方針

- (1) 学校教育目標「笑顔あふれる子どもの育成」を最上位目標とし、全ての教育活動でこの目標の達成を目指す。
- (2) 学校教育目標を達成するために必要な資質・能力を「理解力・実践力」「想像力・創造力」「主体性・協働性」と捉え、教育活動を展開する際には、それぞれの活動が、主にどの資質・能力の育成を目指しているかを明確にし、指導に当たる。
- (3) 各担任は、育成を目指す資質・能力や学級の実態等をふまえて「カリキュラムマネジメント表」を作成し、PDCAサイクルを回しながら目標達成を目指す。

3 育成を目指す資質・能力

- (1) 知識及び技能 「理解力・実践力」
- (2) 思考力、判断力、表現力 「想像力・創造力」
- (3) 学びに向かう力、人間性 「主体性・協働性」

4 目指す子どもの姿に迫るための具体的な取組

(1) 学習大好き かしこい子ども

- ・基礎基本の定着と、身に付けた知識・技能を活用・発揮させる授業の創造 「理解力・実践力」
- ・音で広げ、文字で刻む(意見を交流させ、自分の言葉で振り返る)授業の創造 「想像力・創造力」
- ・意欲を喚起・持続させ、仲間とともに課題を解決する授業の創造 「主体性・協働性」

(2) みんなを大事に 豊かな子ども

- ・自分の生活を見つめ、善悪を判断して行動する力を育てる生徒指導 「理解力・実践力」
- ・学校生活の充実と向上を目指し、想像力を発揮して活動を創り上げる児童会活動 「想像力・創造力」
- ・異年齢の子どもたちが主体的に楽しく触れあい、交流を図るはばたき班活動 「主体性・協働性」

(3) 明るく健やか 元気な子ども

- ・自分の心と体の状態やよりよい生活・運動習慣について理解し、実践する力を育てる健康・安全指導 「理解力・実践力」
- ・健康で安全な生活を送るために、仲間とともに工夫できる子どもを育てる健康・安全指導 「想像力・創造力」
- ・運動に親しみ、楽しさを味わいながら体力の向上を図るとともに、同じ目標に向かって力を合わせ、全力を出し切るスポーツフェスティバル 「主体性・協働性」

5 家庭・地域との連携

(1) 学習参観・懇談会・面談（通知表配付・六小教育の日）等による保護者との情報交換

- ・子どもたちの学習の様子を実際に見ていただいたり、懇談会や面談等で子どもに関する情報交換を行ったりして、家庭と連携しながら子どもたちを育てていく。

(2) 学校の教育活動の説明・発信

- ・PTA総会や学校だより、学年・学級だより、ホームページ等で、教育方針や教育活動、子どもたちの様子を保護者や地域に積極的に発信する。

(3) 学校運営協議会における地域との連携

- ・校長が示す学校運営の基本方針を承認いただいたり、学校や地域の課題について意見を交換したり、実際に子どもたちの学習の様子をご覧いただいたりしながら、子どもを中心に据えた連携が図られるようにする。

(4) 山形中央高校との連携や地域人材の活用

- ・山形中央高校と体育の授業（スポーツテスト・陸上・水泳・体づくり運動）を通して連携を図る。また、地域学校協働活動推進員を窓口にして、その時々での学習で必要な地域人材を積極的にリクエストし、活用する。

6 学び合い、高め合う教職員集団

(1) 凡事徹底

- ・時間厳守、あいさつ、言葉遣い、電話応対、TPOに応じた服装、信用失墜行為の絶無等々について、社会人として、教職員として、当たり前のことを当たり前に行う。

(2) 子どもファースト

- ・子どもたち一人ひとりを大切に、温かな思いで支え続ける。
- ・子どもたちの多様性を認め、ストロングポイントを伸ばし、自己肯定感を高める。

(3) 授業で勝負

- ・日々の授業を何よりも大切に、その充実に力を注ぐ。

(4) チーム第六小

- ・教職員一人ひとりが当事者意識を持って、学校経営に参画する。
- ・教職員一人ひとりが自分のストロングポイントを大いに発揮し、ウィークポイントは補い合う。
- ・絶え間ない研修で個々の力量を高めるとともに、チームとして組織的に課題に立ち向かう。
- ・悩みは一人で抱え込まず、誰かに相談する。

(5) オンとオフの切り替え

- ・ワークライフバランスを考え、早くカエル、働き方をカエル、人生をカエル。
- ・ライフを充実させることでリフレッシュを図り、心身の健康を保つ。自分の視野を広げる。
- ・働き方改革の目的や勤務の実態を共有したうえで、教職員の声やアイデアを反映させたボトムアップ型の働き方改革を実行する。